

〔評議員会議事録〕

日時：2012年1月28日（土） 12:00-17:00
場所：東京大学理学部1号館336号室
出席評議員：伊藤、岡村、牧島、劉、井上、奥村、須藤、額重、家、市川、佐藤、柴田、杉山、林（正彦）（以上14名）
欠席評議員：海部、渡部、池内、犬塚、林（隆之）、観山（以上6名）
その他、河合副理事長、本原・竹田庶務理事、松尾・田代会計理事、西野事務長、長田哲也研究奨励賞選考委員長が出席した。
なお、岡村理事長と杉山副理事長は評議員を兼任している。

I. 確認事項など

I-1 議事に先立ち、出席者が14名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また議長と署名人が以下のとおり選出された。

議長：須藤 靖
署名人：井上 一、市川幸平

I-2 資料2に基づき、前回2011年9月20日の評議員会議事録の確認が行われた。

II. 報告

II-1 理事会報告（本原）

本原庶務理事より、1月21日に行われた理事会の報告がなされた。

II-2 事務長交代について

宮下曉彦氏が2011年12月31日をもって退職し、2012年1月1日より西野洋平氏が新事務長として着任したことが報告された。その後、西野新事務長の紹介があった。

II-3 事務所報告（西野、資料3）

現在11名が事務所で作業している。また毎週月曜日に事務所連絡会を行っており、理事長、庶務理事、会計理事が随時出席して情報共有を図っている。

II-4 学術会議報告（須藤）

2011年10月より第22期学術会議が活動を開始し、第3部の物理学委員会の下に天文学宇宙物理学分会が発足した。天文学分野の学術会議委員は、観山正見と須藤 靖の2名。これに17名の連携会員（井上 一、岡村 定矩、奥村幸子、面高俊宏、海部宣男、梶田隆章、國枝秀世、小山勝二、佐藤勝彦、芝井 広、柴田一成、杉山 直、中川真雄、林 正彦、福島登志夫、牧島一夫、森 正樹）と、地球惑星分野の会員である永原裕子を含む全20名が分会委員長である。すでに、11月1日と1月4日に2回の会合が行われ、大型計画マスタープラン改定へ向けての意見集約、ビッグプロジェクトには含まれないが科研費ではカバーするのが容易ではない中規模プロジェクトのサポート、シンポジウム開催などの活動目標を設定した。さらに、宇宙開発基本計画に対して、何らかの意見表明を行うことを検討中である。

II-5 宇宙政策について（井上）

宇宙開発戦略本部の下に設けられた宇宙開発専門調査会が1月13日に取りまとめた報告書で今後のJAXAの体制とおおよその方向づけがなされた。具体的には司令塔の機能が内閣府に置かれ、宇宙政策委員会が組織される。JAXAの主務省が文科省というのは変わらないものの、主務大臣にはこれまでの文部科学大臣・総務大臣に加えて、内閣府の長としての内閣総理大臣と、経済産業大臣が追加される。

これに対し、主務大臣が複数設定されたことは深刻な問題である、実用衛星と科学衛星をどのように選んでゆくかの決定プロセスで官庁間の調整が必要になるため、科学衛星にしわ寄せが来る可能性が高いだろう、科学衛星が今後の衛星技術をリードするような方向性を目指す必要がある、などの議論がなされた。

II-6 IAU報告（岡村、資料4）

IAU北京総会に推薦する新メンバーを選考し、77名の申請に対して研究歴なども考慮した上で74名を適格とした。さらに、国籍の調整をした上で最終的には73名を推薦した。また、現在名簿の更新をウェブで受け付けているので、会員に周知して欲しい。

II-7 早川基金報告（本原、資料5）

合計19名に補助を行った。この中で、17名は交通費、2名は滞在費の補助である。

II-8 林 忠四郎賞選考委員会の構成について（岡村）

林 忠四郎賞選考委員会の人数が、定員に一人欠けていたことが、選考会当日に判明した。理事長はex-officioであることが認識されていなかったための模様。今年度は1名追加する。

II-9 延滞事務手数料について（本原、資料24）

現在の会費および年会講演登録料支払いの遅延時に払う事務手数料は、消費者契約法第9条で延滞金が年率14.6%を越えてはならないという規定に違反しているという指摘があった。調査の結果、契約者が一般の研究者の場合は消費者とはみなせないことから、同法は適用されないだろうが、アマチュアには同法が適用される可能性が高い。そのため、今後は年会講演登録料については延滞遅延金が発生しない形の講演登録・支払の方式を検討することした。会費については延滞遅延金が年14.6%以下になるように金額を変更する。これに対し、年会講演登録料については、会場での現金の取り扱いを減らすという精神を考えるとやはり事前支払いを徹底するようにすべきだろうとの意見が出された。

II-10 日韓合同セッションについて（河合）

2011年10月の韓国天文学会年会時に韓国天文学会と共催した合同セッションについて簡単に報告された。開催地の受け入れ準備態勢を考えると2012年秋の年会時に開催するのは難しい。2013年春季年会で、通常の企画セッションとして開催し、課題を洗い出すことが提案された。その際は、外国人対応は企画セッションの世話人が行う。この場合、特別な予算措置が必要になるかという質問が出され、運営の一部、特に申込の手続きや事前支払いの部分で外国語に対応する必要があることが指摘された。また、日本側の世話人である柴田評議員より、2011年に韓国で開催された合同セッションの際には講演登録料は会員価格であったことが説明され、日本で開催される場合にも同様の措置をとることが確認された。

II-11 サポートレターの発行について（岡村）

2014年度で韓国が開催を目指しているIAU Regional Meetingへのサポートレターを発行したことが報告された。

II-12 学会としての情報発信（家）

福島原発の炉心溶融事故の際、日本気象学会の会長から学会員に対し、SPEEDIのモデルの公表を自粛する要請があり、問題となった。この要請は会長の独断で出された模様であるが、日本天文学会でも危急時の情報発信の仕方リスク管理を行うべきではないかという提案がなされ、理事会でも検討することとした。

III. 議題

III-1 2011年度各賞受賞者の決定

・林 忠四郎賞（井上、資料15、16）

林 忠四郎賞、欧文研究報告論文賞選考委員である井上評議員より、選考経過、及び最終候補者に田村元秀氏を推薦する理由が説明された後、同氏に授賞することが承認された。

・欧文研究報告論文賞（井上、資料15、17、18）

同じく井上評議員より選考経過、及びTotani-et al. (2006)およびKuno et al. (2007)の2篇を推薦する理由が説明され、推薦通り授賞することが承認された。

・研究奨励賞（長田、資料19）

長田哲也研究奨励賞選考委員長より、選考経過、及び今回は該当者無しとすることが説明された。

これに対し、例年に比べて基準が厳しくなったのかという質問がなされたが、そんなことはなくそもそも例年は10名前ある会員からの推薦が今年度は少なかった。また、この種類の賞は一度落選すると再推薦しづらいので、落選した候補者の推薦者へ、次年度も応募を促す連絡をすべきではないかという意見も出された。さらに、昨年や一昨年のような淡泊なtennetの注意喚起メールではなく、選考委員会として、天文月報掲載から締切までしっかり注意喚起をするシステムを作り、それを申し送るのが重要ではないかとの意見も出された。

以上の議論を経て、研究奨励賞は受賞者なしとすることが承認された。

・天体発見賞・天体発見功労賞（本原、資料19）

天体発見賞選考委員長である渡部潤一評議員が欠席のため、本原庶務理事が資料19に基づき、天体発見賞6名/1グループ15件、及び天体発見功労賞3名3件の推薦理由が説明され、推薦通り授賞することを承認した。

また、天文功労賞の長期部門2名、短期部門1名の候補者の推薦理由が説明され、推薦通り授賞することが承認された。

III-2 2011年度事業報告書（案）（本原、資料8）

2011年度事業報告書案が説明された。内容としては事業計画書の記載事項と一対一対応させてあるが、年会の報告が冗長になっており次年度以降は簡潔にまとめる予定である。

III-3 2011年度決算報告書（案）（松尾、資料9）

2011年度決算報告書案が説明された。

・一般会計

未収金が大きいが、これはPASJ特集号(SP3)の発行が12月にずれ込んでしまったためで、1月に回収されるものが大部分である。また、PASJの収支が大幅に改善しているが、これはE-Openの収入が500万円以上あったことによる。天体発見賞のメダルを新規の50個製作したため、その支出が大きくなっている。年会は1回しか開催出来なかったものの、秋季年会の講演・参加者が非常に多く、その収入が伸びた。また予稿集の値上げによる増収もあった。最終的な収支は280万円程度の赤字になっている。

・特別会計

早川基金への多額の寄付があり、残高が5000万円を超過した。公益法人においては使途が決まっていない遊休財産が年間事業費をオーバーしてはならない。現在、使途を確定させているので大丈夫であると考えられるが、再度確認することとした。

III-4 2011年度監査結果（牧島、資料10）

監事でもある牧島評議員より、2012年1月18日に国立天文台三鷹で紀伊恒男および牧島一夫両監事によって行われた監査の結果、2011年度事業報告書、2011年度決算報告書ともに正当であることが報告された。

以上の議論を経て、2011年度事業報告書案および決算報告書案は承認された。

III-5 早川基金の使途について（岡村）

早川基金は設立時に750万円基金から開始されたが、現在残高は5000万円を超えるレベルにまで増えている。これには一個人からの寄付が大きく寄与しており、そろそろ早川基金の枠組みに収まらなくなりつつあるように見える。また、公益法人認定の際、5000万円を超える試算に対し年間250万円の使用予定しかない場合、問題になる恐れもある。若手の海外渡航に対する旅費・滞在費の補助という現在の使途を越えて、若手の育成に資する新たな枠組みの提案はないか、評議員会の意見を伺いたい。

これに対し、現在若手、とくに学生が旅費を獲得するのは格段に楽になっており、旅費以外を考える必要があるのではないかと、若手として最も欲しいと考えているのは奨学金である、奨学金制度が出来れば画期的であるがその場合は定常的な収入を確保する必要があるだろう、などの意見が出た。以上の議論を受け、若手の会でアイデアを募ることとした。

III-6 新定款案（杉山、資料11、12、13）

新定款で修正された部分が解説された。とくに新しい会員資格は、天文教育関係者やハイアマチュアにも積極的に正会員になってほしいという意図が込められている。以上の説明の後、新定款案は承認された。また、今後細部の変更が必要な場合の権限を理事長に委任することも承認された。

III-7 代議員選挙施行細則（杉山、資料6、7、14）

代議員制度に移行する際に、現在の評議員がそのまま代議員となることは認められないことが判明し、今年度中に代議員選挙を行うことになった。このため、本評議員会で代議員選挙施行細則の承認が必要であることが説明された。なお、初交代議員の改選時期と理事会の入れ替わり時期が同期しないよう、最初の選挙で選ばれる代議員の任期は1年3ヶ月及び3年3ヶ月の2パターンが存在するが、議論の結果、投票の結果の順位が奇数番目のものの任期を3年3ヶ月、偶数番目のものの任期を1年3ヶ月とすることとした。以上の議論のち、代議員選挙施行細則が承認された。また、細部の変更が必要な場合にはその権限を理事長に委任することも承認された。

III-8 春季定期総会議題（案）（本原、資料21）

秋季定期総会議題案が説明された後、承認された。

III-9 会費未納者の除名について（本原、資料22）

2010、2011年度2年分の会費未納による除名予定者のリストが説明された。2月中に会費の支払いがあった場合には取り消しも可能であることが説明され、承認された。

III-10 PLCの屋外利用に関する声明について（岡村、資料23）

資料23で示した、PLCの屋外利用の拙速な認可に対する懸念を表明する声明を出すことが説明され、承認された。

今回の評議員会は、2012年3月20日の春季年会期間中に龍谷大学で開催される予定である。また、次々回の評議員会は2012年7月14日に開催される予定である。

〔資料リスト〕

資料1 評議員会出欠表

資料2 前回評議員会議事録

資料3 事務所報告

資料4 IAU報告

資料5 早川基金採択者一覧

資料6 新法人移行へのスケジュール

資料7 初交代議員の選定方法について

資料8 日本天文学会2011年度事業報告書（案）

資料9 日本天文学会2011年度決算報告書（案）

資料10 監査報告書

資料11 新定款（案）修正のお知らせ

資料12 新定款（案）修正のお知らせ（2）

資料13 新定款（案）2012年1月25日版

資料14 代議員選挙施行細則（案）2012年1月25日版

資料15 2011年度林 忠四郎賞選考委員会（欧文研究報告論文賞選考を含む）選考経過報告

資料16 2011年林忠四郎賞候補者推薦理由書

資料17 2011年欧文研究報告論文賞候補推薦理由書（1）

資料18 2011年欧文研究報告論文賞候補推薦理由書（2）

資料19 第23回（2011年度）日本天文学会研究奨励賞選考報告書

資料20 2011年1月～12月の天体発見賞・天体発見功労賞候補者の推薦

資料21 2012年度春季定期総会議題案

資料22 除名予定者リスト

資料23 要望書「電波天文観測に有害干渉をもたらすPLCの拙速な屋外を進めないこと」

資料24 会費及び年会登録料の延滞事務手数料について

2012年3月5日

議長：須藤 靖 印

署名人：井上 一 印

署名人：市川幸平 印